

## 慧文社の自費出版・企画出版概要

### 慧文社の自費出版・企画出版ポリシー

慧文社の自費出版・企画出版は、低料金であなたの本を作ります。他社の自費出版でしばしば問題になるのが、その料金の高さです。それは、著者の負担する金額だけで利益を確保しようとする一部の出版社の姿勢によるものです。そういう姿勢をとる出版社にとっては、内容の良し悪しや本が売れるかどうかは、もはやどうでもいいことです。なぜならば、本を刊行する前に、すでに利益を上げてしまっているからです。（たかだか、200 ページの本で 150 万、200 万とは、高すぎませんか？）

一方、小社の場合、将来書籍を販売して上げるであろう利益の一部を、著者の負担から前もって差し引き、その分、料金を安くさせていただいております。したがって、本を刊行する時点では、利益は殆ど出ておりませんから、書店・図書館などに配本・流通し、そこで、一定の売り上げを確保せねばなりません。まさにここにこそ、著者の「広く自分の考えを世に問いたい」という希望と、営利企業である弊社との目的の一致が出てくるわけです。

従いまして、弊社では基本的には、「売れる本」すなわち、内容のしっかりした、後世に遺すべきであると判断される原稿のみを受け付けております。文章が下手だから全面的にリライト（書き直し）して欲しいとか、文章の指導をしてほしいというような御要望が時々ありますが、そういう要望には殆どの場合お応えできません。何故ならば、基本的に原稿は著者が書くものであり、出版社は、その原稿の内容を検討・精査し（文章の整合性や事実と誤りがないか等のチェック）、読者に読み易いように形を整え（レイアウトの調整や誤字・脱字等の修正等）、刊行後は、それをなるべく多くの人の目に触れるようにする（書店への配本や広告）のが仕事であると心得えるからです。「お金をもらえばなんでも出版する」ということは、出版社としての良心に悖るばかりか、「書籍」に対する世人の信頼を損なわせ、「活字離れ」を惹起し、益々、わが国の出版業界の未来を暗くするものと確信します。

以上のような理由から、弊社では、

- ①〔研究書の場合〕大学・高等学校等の教員、および研究機関の方の原稿で高度な専門性を有する原稿
- ②〔一般書の場合〕一般の方の著作であっても、内容が高いレベルに達し、本として刊行するに値すると判断されるもの。

という一定の基準を設けさせていただいております。

過去の例からも、①の場合、大体は刊行（市販）させていただいておりますが、②の場合、内容等を検討してお断り申し上げるか、私家版（定価をつけず市販しない）での製作をお勧めすることもよくございます。

以上、何卒、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

平成 16 年 4 月吉日

慧文社